

2008年9月1日

2008年 東京大学教養学部 夏学期  
全学ゼミナール「地球温暖化と経済学」講義感想文  
(履修登録者 28名、合格者 21名、感想提出者 16名)

山口 光恒

1、1年文科二類

一言で言うならば「これが大学の講義か…！」と心から思わせられた授業でした。講義中は先生がお話しされる内容の理解に混乱することしきりで、正直なところを申し上げると私の能力では講義のレベルについていけないという気すらしましたが、それでも内容に興味があって取った講義であったために何とか最後まで食らいつくことができました。「地球温暖化と経済学」についての内容にとどまらず、情報をそのまま鵜呑みにしてはいけないことをあれほどまでに教えて頂いたことは初めてです。最近新聞を読む時などでも（因みに私は朝日を取っているのですが…）書いてある内容をそのまま受け取ることをせず、若干ながら内容に対して疑ってかかるような視線が身についたような気がします。

一学期間この講義を聞いたことで、大学において学問に相対する上での姿勢というものがある程度ではありますが掴めた様な気がします。

先生の毎度多忙なスケジュールの合間を縫ってやって来て授業をされる姿にはただただ敬服の一言でした。また、様々な会議やテレビ出演、海外出張などにまつわる裏話にも毎度心を惹かれ、楽しみながら聞かせて頂きました。

最後になりましたが、熱い講義を聴講させて頂き、本当にありがとうございました。

2、1年文科二類

私が環境経済学に興味をもったのは、高校生のおきでした。私は大学に入る前に、各大学の経済学部の授業の名前を見て、大学受験のやる気を奮い起こしていたのですが（笑）、そのときに「環境経済学」という言葉に惹かれました。環境問題を経済学を用いて解決するのだろうか、と想像し、「将来絶対必要になる学問だろうし、経済学の中でも実践的なのではないか」と思ったからです。こうして、「環境経済学」に（漠然としてはいたものの）興味をもった私は「地球温暖化と経済学」の授業を取ることにしました。

この授業は私の期待を裏切りませんでした。先生が授業の最初にしてくださる雑談は雑談とはいええないほど、濃密なものでした。第一人者ならではのお話は面白い上に、最新の情報を得るという意味でもとても有意義なものでした。授業のほうでは、環境問題に対する経済学的アプローチを理論だけでなく、具体例も交えて教えていただきました。他に取

っていた「経済」の授業では非現実的な仮定に基づく基本理論を習っていて、経済学なんてちっとも現実的じゃないじゃないか、と不満気に思っていた私は、先生の授業を受けて、やっぱり経済学を学びたい！と思うようになり、やる気が湧いてきました。そして、先生の教えてくださる環境経済学に「経済」の授業で習ったことが出てくる時に、やっぱり基本的な理念も大事なんだなぁと気づかされ、さらに経済学を学ぶ意欲が湧いてきました。

環境問題、特に地球温暖化問題が今盛んに議論されています。将来にはもっと盛んに議論されることでしょう。このような状況において、私たちは正しい知識と様々なアプローチを学ぶ必要があると思います。私はこの授業において、かなりの知識と、経済学的アプローチの枠組を教えていただきました。でも、まだまだ学ぶべきことはたくさんあるはずで、まず、後期の授業で知識と経済学的アプローチをもっと勉強して、その後には他の学問からのアプローチも見てみたいと思っています。

### 3、1年文科二類

夏学期の講義を通し、地球温暖化対策を経済学的視点で現実的に分析するというこの大切さを感じました。最も痛切にその大切さを感じたのは「やらない損害とやりすぎる損害を天秤に架ける」という言葉でした。現在の世界では経済発展を重視する立場と環境保護を重視する立場に分かれており、私は後者が正しいと考えていました。なぜなら、将来の世代に地球という有限な資源を利用可能な形で残すことが現在を生きる私たちの使命であり、そのためにはある程度の経済発展の抑制は致し方ないと考えていたからです。しかし、もちろん経済発展だけを考えるのは良くないことではありますが、環境保護も行き過ぎると損害を生むということがわかり、少し考えが変わりました。

国際的な合意がなされるのは非常に難しい状況となっていますが、科学に基づくデータにより最も良い解決策を見つけることができるはずで、そのためにも今後は様々なデータ、モデルが大きな価値を持ってきます。それが IPCC の責務であり、大きな期待の集まる場所であると思います。

冬学期は今後の国際的取組みの展望など将来的なお話を聞けたらいいな、と思います。冬学期もまたよろしくお願い致します。

### 4、1年文科一類

僕はもともと環境問題、特に地球温暖化問題に興味があったため、山口先生の温暖化問題の解決を経済学的な視点から図るという講義に興味を持ち、今回地球温暖化と経済学を受講させていただきました。山口先生のお話は全体を通じて大変興味深く、聞いていてとてもためになりました。温暖化問題は全ての人の生活と密接にかかわっており、環境意識や精神論だけでは解決を図るのが難しいため、経済的な視点から問題の解決を図らなければ

ばなかなか効果は得られないと思います。今の現状としてはまだまだ温暖化問題の解決は難しいとは思いますが、それでも何らかの対策は取らなければならないはずであり、経済的な視点から解決を図ろうとしていらっしゃる先生のお話を聴けたのは非常に有意義であったと思います。また、経済的な政治手法などの理論的なお話だけではなく、毎回の授業の冒頭に、国際社会の中での先生自身の経験談やお話などを聴けたのも大変興味深く面白かったです。僕自身は環境省に入って環境問題を将来取り扱っていきいたいな、ともともと漠然と考えていたのですが、先生のお話を聞いてそういった仕事の内容が少しは想像しやすくなりました。また、最後のイタリアン・トマトでの先生を囲んでのお話も大変刺激的でした。理論的な面に限らず、先生の色々なお話を聞けて刺激を受け、その結果色々やる気が起きた点が今回の授業では最も良かった点だと思います。来学期も受講するつもりですので、その時もまた興味深いお話をお聞かせ下さい。

## 5、2年文科2類

環境経済学に興味があつてこのゼミを受講しました。90分という時間がとても短く感じられるような、緊張感のある講義でした。今年7月には洞爺湖サミットもあり地球温暖化問題がメディアでも大きく報じられるなかで、専門的な分野でどのような話し合いがなされているのか、どのようなことが起こっているのか、普通に過ごしてはあまり見聞できない貴重な話を時々聞くことができたことが、自分のモチベーションを高めるのにも非常にためになってよかったです。来学期も楽しみです。

## 6、2年文科二類

非常に面白い授業でした。温暖化対策は重要な問題であると同時に、非常に難しい問題であると考えていて、この問題に経済学はどのようなアプローチをしているのかに興味があり受講しました。国際的に様々な議論や取り組みが行われていることがわかりましたが、この問題は各国の利害が絡む政治的問題としての側面が大きくなっているのだという印象を強く受けました。特に、CO2削減をめぐる先進国と途上国の対立は深刻で、これまでの先進国の経済発展のあり方を背景とする根の深い問題だと思いました。また、「いくら学問的、理論的に正しくても、実際はその通りにはいかないことも多い」ということを改めて学びました。理論上の問題と同時に、現実はどうなのかということ気を付けて見ていかなければならないと実感しました。

そして、本編以外の話、例えば、国際会議で物事が決定していく過程や国際会議での日本人のコミュニケーション能力や英語力についての話は非常に興味深かったです。また、新聞に書いてあることを鵜呑みにしてはならないという話も印象に残りました。今後、自分の専門とするものができたときには、その分野に関する記事を気を付けて見て、パイア

スのかかった報道を見破れるような確かな目を養っていきたいと思いました。

いろいろな面で為になる授業でした。どうもありがとうございました。

#### 7、1年理科一類

経済学の知識がなかったので難しかったですが、講義は新しい知識が得られて面白かったです。深い知識を得ていないのでまだ人に説明できるレベルではありませんが、地球温暖化に対して新聞には書いていない知識を得られたことがうれしいです。今回は経済的手法に限定していましたが、このレポートについて調べるかていで技術的手法にも興味がわきました。また、気候変動枠組条約やIPCCの歴史についても調べてみましたが、世界各国の対立や離合集散を知りました。日本は産業界が、できると確約したことしか約束しないということを知らなければ、消極的に映っていたと思います。アメリカはできないことをできないと言っているようだったし、EUは指導力を発揮しているように見えますが、先生の言うとおりにイギリスとドイツがなければ達成できていなかったでしょう。産油諸国は事あるごとに議論を先延ばししているように感じました。経済的手法のほかに、政治的経緯も面白いと感じました。

#### 8、1年理科一類

経済学の視点から温暖化問題の解決策を探ると言うトピックは今まで触れる機会がなかったので、新鮮な内容でした。取り分け「環境問題を解決する上では環境のことだけを考えるのではなく、国家間の不平等や経済活動への影響を考慮して対策を練らなくてはならない」という話は問題の複雑さや難解さを改めて示唆してくれるよい刺激となりました。授業内容の量に対してレジュメの解説が簡素であるため、メモを取ったにも関わらず後でレジュメを見直してもすべての内容を思い出すことができないということが残念でした。授業のテンポが早いということもあるかもしれませんが、レジュメの解説をもう少し増やしていただければ、と思います。

#### 9、1年文科二類

- ・地球温暖化と経済学の強い結びつきについて知れるとともに、それぞれの長所・短所を持ったあらゆる政策が存在することを知り、この分野に対して非常に強い興味を持った。冬学期の講義でさらなる知識を得たいと思うとともに、自分でもいろんな政策について調べ、しっかりとした意見を持てるようになりたいと感じた。
- ・先生の授業の最初の雑談も非常に新鮮で、得るものも大きいので今後も続けてほしい。

- ・数回に一度、授業の感想・質問を紙に書く機会があるが、書いた質問が必ずしも答えられるわけではないのが残念。もう少し質問しやすい環境を作っていただけるとありがたい。
  - ・冬学期はディベートなどより実践的なことをされるとおっしゃっていたが、そのようなことを行う授業がなかなかないのでぜひ沢山やってほしい。
- 冬学期も先生の講義を楽しみにしています。

## 10、1年文科二類

環境問題において単純に理想を唱えるのではなく現実にそれを実行し、その損失を最小限に抑えようという考え方は面白いと思いこのゼミをとりました。元々経済について興味があり、社会と経済の関連でどうしても解決しない難問が経済的手法を持ち込み金の問題にしてしまうと一気に話が進むようなことに感心して経済を勉強しようと思っていました。環境問題はその典型のように感じましたので最初から強い興味がありました。実際にお話を聞くと、あらゆる面での経済性の重要性を再認識することになり、経済的に優れているものが実際に効率よく働くことは納得でしたが、日本の自主行動のようにその国独特の相性のある政策があるようなことは、言われれば至極理解できるものの、初めて聞いたときは目から鱗が落ちるかというほど感心しました。経済は生き物だなあ、と感じ入りました。それまで直接規制は20世紀の遺物か何かだと思っていたので。洞爺湖サミットもあり、その経過をうかがう中で、日本の難しさの一端をかいま見て、ある意味忸怩たる思いを感じつつも、そういう現実があることを目の当たりにできたことはうれしい限りです。これから新しいニュースが・u 椰C (ママ) になったりしたとき、自分はより自ら情報に接して、正確な議論を知って問題の本質的なところに少しでもついて行けたらと思いました。

## 11、1年文科二類

夏学期の講義では、たくさんのが得られました。排出取引やIPCCなどは普段からニュースなどで聞き知っていた言葉でしたが、今回具体的な知識を得て、より理解が深まり、具体像がつかめるようになりました。また、環境効果のみならず、効率性など経済学的な立場からの政策評価を行っていたのも大変興味深かったです。正直言って全部完全に理解したという自信はありませんが、環境税や排出取引などのしくみの解説もとても丁寧でありがたかったです。これからは、環境問題について考える際には以前とは違う観点からアプローチすることができると思います。

また、授業前の海外事情や政府の審議会、新聞記事などについてのお話も大変興味深く聞かせていただきました。とても貴重なお話を聞くことができ、本当に感謝しています。

今後、冬学期は議論なども入ってくると聞きましたが、できる限り積極的に参加してい

きたいと思っています。

## 1 2、1年文科二類

授業を受ける前まで漠然と、「環境」が先行した議論や、「経済を無視してでも地球を守るべき」といったおもにテレビなどのメディアから発せられる抽象的・優等生的主張に懐疑心を抱いていて、結局のところ人間社会が存続・発展していくために自然環境を食いつぶさない程度に利用していくべきというのがこの本質ではないか、と考えていました。授業を受けて、実際に経済と環境がどのような関係にあるのか、授業では経済が主に手段として、環境保護を目的として、知る機会が得られました。しかし、まだまだ勉強が足りず、冬学期も継続して受講し、より知識・考えを深めたいと思います。

## 1 3、2年文科二類

1学期間、お世話になりました。私にとって、得るものの多い授業でした。特に、洞爺湖サミットの前後など、実際の世界の動向を生で聴かせていただけたのは非常にためになるとともに、改めて世界における日本の立場を考えるきっかけになりました。ほとんど単一の民族による国であること、宗教の存在が比較的軽いこと、島国であることなど、日本は世界の中でも特殊な国であると私は考えています。しかし、だからこそより他国のことを知り、その上で意見を発信する国でなければならないはずです。「どんなニュースや情報にも、自分の意見をもつようにすること」という山口先生の言葉がとても印象的でした。ありがとうございました。

## 1 4、1年文科一類

この講義を取った第一の理由は、地球温暖化と経済学という、一見して関係のない2つの要素の取り合わせに興味を惹かれたからである。講義は最初の方はわかりやすかったが、ピグー税などのところに進んでいくと、正直わからないところも多かった。また、山口先生が国際会議などの場でどのように活動されているかのお話も非常に興味深く聞かせて頂いた。(もしかすると講義より面白く聞かせて頂いたかもしれません)

ただし、現在行われている、地球温暖化への対応策が全て「予防策」だと聞いた時は、非常に不安を覚えました。科学的知見に基づいた目標削減量が国際社会で合意に至っていないまま、多大な資金や犠牲を投入して温室効果ガスの削減に進むのは、非合理的な気がしてなりません。そもそも科学者の中で、地球温暖化がそもそも起こっているのかどうかさえ疑問を呈する人もいます。しかし地球温暖化が進行しすぎて手のつけられない状態になってしまえば遅いので、予防策は取る必要があるとは思いますが、どの程度行うべきか

はわかりません。このあたりのところをもっと教えていただければと思いました。

また、講義の中では自分の地球温暖化に対する科学的知識のなさも痛感させられました。夏休みの間には、理科関係の本も読んで知識を蓄えたいと思っています。

あと、最終レポートの話題をもっと絞っていただければ…と思いました（私だけかもしれませんが、どのように書くかを決めるだけで非常に悩みました。）

最後になりましたが、山口先生、本当にありがとうございました。来学期お会いできるのを楽しみにしております。

## 15、1年文科二類

もともと環境に興味があり、文二に入った後も経済面から環境に関われる道を探している中で、この講義を受けることが出来て本当に幸せに思います。講義を通じて環境政策を検討するための経済的視点を得られ、経済的手法がなぜ効率的かを理論的に学びました。同時に理論と現実のズレ・ズレが生じる原因を学び、一見万能に見える経済的手法の危うさも踏まえる必要を感じました。また、洞爺湖サミットのようなタイムリーな話にも触れることができ、世界の温暖化対策の最近の流れを知ることが出来ました。

内容が面白いのに加え、先生の独特の語り口のおかげで刺激的な授業だったと思います。必修以外では一番出席していました。4ヵ月ありがとうございました。

## 16、2年理科三類

もともと理系の人間なので、経済学という視点は新鮮で心惹かれました。政策や技術も実施してから、敷衍させねば意味が無いものが多いので、経済的評価の必要性を強く感じました。公平性も焦るあまり忘れがちになり、交渉を停滞させかねないのでしっかりと心に刻んでおこうと思います。日本企業や政府の考え方が、世界において特異なものであるという日本に居ては分からない事情が印象的でした。

雑談として先生の国際的な実体験、意見が聞けるのも他の講義では味わえず、楽しくて有意義な時間でした。